

令和6(2024)年度										年 間 授 業 計 画									
教科・科目			国語					言語文化					2		単位				
対象学年・組			1 年生					必履修											
教科書 (出版社)			言語文化（大修館書店）					要点プラス体系古典文法改訂版（数研出版） 言語文化 学習ノート(大修館書店) 力をつける 言語文化(数研出版)											
学習目標 【観点別】			○古典・現代小説に親しみ「読むこと」において必要なきまりを理解させ、文章に親しむ態度を育成する。【知識及び技能】 ○「読むこと」において文章に表れている内容を理解し、批評したり評価することができる。【思考・判断・表現】 ○言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に意欲的に関わろうとしている。【主体的態度】																
学期		予定 時数	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容			評価規準			話 聞	書	読	知	思	態			
1	前半	12	古文に親しむ 宇治拾遺物語 「児のそら寝」		・物語の展開をとらえ、はなしのおもしろさを味わう。 ・作品に興味を持ち、作品の表現に着目しながら読む。			【知識及び技能】知(2)ウ ・古典を読むために必要なきまり、特有の表現について理解している。 【思考・判断・表現】B（1）イ ・「読むこと」において文章の種類を踏まえ内容についての確にとらえている。 【主体的態度】 ・作品に興味を持ち、話のおもしろさや人物の心情の変化などをとらえようとしている。			○	○	○	○	○	○			
	後半	12	言葉の紡ぐ世界 「羅生門」		・場面ごとの人物の心情の変化を読み取る。			【知識及び技能】知(1)ウ・知(2)ウ ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、文化的背景について理解を深めている。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 【思考・判断・表現】B（1）ウ ・「読むこと」において文章の構成や展開、表現のしかた的特色などについて評価している。 【主体的態度】 ・作品に興味を持ち、話のおもしろさや人物の心情の変化などをとらえようとしている。			○	○	○	○	○	○	○		
2	前半	14	自然へのまなざし 枕草子 「九月ばかり」 表現の多様性 「夢十夜」		・自然の情景に対する作者の感覚をとらえる。 ・作品に興味を持ち、作品の表現に着目しながら読む。			【知識及び技能】知(2)ウ ・古典を読むために必要なきまり、特有の表現について理解している。 【思考・判断・表現】B（1）ウ 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つている。 【主体的態度】 ・作品に興味を持ち、自然の情景に対する作者の作者の感覚や作品の特色に注目しながら読もうとしている。			○	○	○	○	○	○	○		
	後半	14	人との交わり 伊勢物語 「あづま下り」 表現の多様性 「良識派」		・物語中に表された古典世界の恋愛・物語のあり方をとらえる。 ・風刺、寓話としての表現を理解する。			【知識及び技能】知(2)イ 知(2)ア ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思考・判断・表現】B(1)エ B(1)イ ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 【主体的態度】 ・作品に興味を持ち、風刺・寓話としての表現を理解しようとしている。			○	○	○	○	○	○	○		
3		18	現代に生きる言葉 「蛇足」 想いを表す言葉 「静夜思」		・漢文と我が国の言語文化の関わりについて関心を持ち、漢文訓読の決まりを理解する。			【知識及び技能】知(2)ウ・知(2)ア・知(1)エ ・古典の世界に親しむために必要な訓読のきまりを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や外国文化との関係について理解している。 【思考・判断・表現】B（1）ウ 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つている。 【主体的態度】 ・漢文の学習に興味を持ち、我が国の言語文化の関わりについて関心を持つている。			○	○	○	○	○	○	○		
評価の観点 (評価基準)			○言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解し、言葉を通して他者や社会に意欲的に関わろうとしている。 ○我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について対する理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ○「読むこと」において作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ内容を解釈し、批評したり評価したりすることができる。																
評価の方法			定期考査、小テスト、提出物、授業態度等により評価																
学習の手引き			○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。 ○我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ○他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。																
授業担当者			宇野優子・田中まどか・遠藤琢真																

令和 6 (2024)年度			年 間 授 業 計 画							
教科・科目			国語	現代の国語	2 単位					
対象学年・組			1 年生		必履修					
教科書 (出版社)			現代の国語（大修館書店）		アシスト常用漢字（数研出版） 現代の国語学習ノート（大修館） L T 現代文 1（浜島書店） 力をつける現代の国語（数研出版）					
学習目標 【観点別】			○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】 ○論理的に考える力や豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考・判断・表現】 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う【主体的態度】							
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	話 聞	書 読	知 識	思 考	態 度	
1	前半	12 明日をひらく 「白紙」 要点をつかむ 「水の東西」	・言葉やコミュニケーションの基礎を知り、学びに向かう姿勢をつくる。	【知識・技能】 ・言葉の意味内容をあらためて考え、認識や思考と言葉との関係を理解している。【(1)ア】 ・読書の経験が読者の考え方に大きな影響を与え得ることについて理解を深めている。【(3)ア】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、エッセイを読み、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえ、要旨や要点を把握している。【C (1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・問いに向かう姿勢を振り返り、自力で考えることを大切にしようとしている。	○	○	○	○	○	○
	後半	12 文章の論理をとらえる 「動的平衡としての生物多様性」 資料を用いて発表する	・主張と根拠、理由づけの関係をとらえる。 ・演繹、帰納に着目して、文章の論理をとらえる。	【知識・技能】 ・主張と論拠などの情報と情報の関係や、推論のしかたについて理解している。【(2)ア・ウ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、本文における情報の関係に注意しながら、内容や論理の展開について叙述をもとに、自分の考えを深めている。【C (1)ア】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・論理的な文章を読むことを通して、情報の関係や推論のしかたに注意しながら内容や展開を把握することに粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整しようとしている。	○	○	○	○	○	○
2	前半	14 資料と文章の関係を読む 「インターネット時代の音楽産業」 状況に応じた通信文を書く	・資料と文章の関係に注意して、情報を読み取る。	【知識・技能】 ・文章と図表の情報などがどのような対応関係にあるかを理解している。【(2)ア】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において文章や図表などに含まれている情報を相互に関連づけながら内容を解釈するとともに、自分の考えを深めている【C (1)イ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・図表を伴う文章を読むことを通して、それぞれの情報を相互に関連づけて内容を粘り強く解釈し、自分の意見を深める中で、自らの学習を調整しようとしている。	○	○	○	○	○	○
	後半	14 文章を比較して読む 「個人から分人へ」 資料を用いて発表する 文章を読み取って主張を書く	・複数の文章を比較し、共通点や相違点をとらえる。	【知識・技能】 ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。【(2)イ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。【C (1)イ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・複数の文章を比較して読むことに意欲をもち、共通点や相違点をとらえようとしている。	○	○	○	○	○	○
3	18	主体的に読む 「作業ロボットの悲劇」 レポートを書く	・目標に即して、文章から必要な情報を読み取る。 ・読み取った情報を活用する。	【知識・技能】 ・主張の根拠の信頼性や妥当性について、確かめたり吟味したりしている。【(2)エ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、目的に応じて文中の情報を関連付けながら内容や書き手の意図を解釈し、自分の考えを深めている。【C (1)イ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・積極的に、自分の目的に応じた情報を文章から取り出し、自分の考えを形成したり修正したりすることに活用しようとしている。	○	○	○	○	○	○
評価の観点 (評価基準)			○生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 ○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 ○言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。							
評価の方法			定期考査、小テスト、提出物、授業態度等により評価							
学習の手引き			○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。 ○生涯にわたり必要な国語の知識・技能を身に付け、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ○他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。							
授業担当者			宇野優子・遠藤琢真							

令和 6 (2024) 年度			年 間 授 業 計 画								
教科・科目			地理歴史		地理総合		2			単位	
対象学年・組			1 年生				必修				
教科書 (出版社)			新地理総合 (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)				新地理総合ノート (帝国書院)				
学習目標 【観点別】			○調査や地図・統計などの諸資料から地理に関する情報を地理情報システムなどを用いて効果的に収集する・読み取る・まとめる技能を養う【知識及び技能】 ○地理に関わる諸事象の意味や意義、特色や相互の関連について、地域などの枠組みの中で概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、地域に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力を養う【思考力、判断力、表現力等】 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の国土に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を養う【学びに向かう力、人間性等】								
学期		予定時	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容		評価規準		知	思	態
1	前半	12	地図とGISの仕組みと活用方法を理解する		○世界から見た日本の位置と領域 ○国内や国家間の結びつき ○地図とGIS		グローバル化が進む世界において、国家間の協調や不均衡を理解するために世界の実態を捉えるための道具としての統計地図やグラフの作り方を理解し、さらにGISで作成した地図を重ね合わせ、地域の特徴を分析する方法と技能を身につけたか。		○	○	○
	後半	12	地理的環境の特色		○地形、気候と生活文化 ○産業と生活文化 ○宗教・言語と生活文化		大地形と小地形に影響された生活、気候区分とその自然環境など多様な影響を受けて生活していることが理解できたか。産業の発達や宗教、言語の分布や人々との関わりや要因について理解できたか。		○	○	○
2	前半	14	世界各地の生活文化		○アジアの生活文化と地理的環境のかかわり ○ヨーロッパの生活文化と地理的環境のかかわり ○アメリカ・カナダ・ラテンアメリカの生活文化と地理的環境のかかわり		各諸地域の特徴に焦点を当て、その特徴についてさまざまな資料から多面的・多角的に考察し、自分なりの答えを出して分かりやすく説明することができたか。複数の国を自然、社会、経済の影響から比較する視点で考察し、理解することができたか。		○	○	○
	後半	14	地球的課題と国際協力		○地球環境と資源・エネルギー問題 ○人口・食料問題 ○居住・都市問題		持続可能な地球社会を考える上で地球規模で起きている問題は一国だけで対応できるものではないこと、多面的・多角的に考えることが必要であること、自らに関わる問題であることをSDGsを踏まえて認識し、理解できたか。		○	○	○
3		18	生活圏の諸課題		○日本の自然環境と防災 ○生活圏の諸課題と地域調査		日本が抱える地域的な課題について、身近な地域を例に取り上げ、景観観察や聞き取りを通じた調査の技能を身につけ、それらの結果を主題図などにまとめ、他地域と比較して考察する技能を身につけたか。		○	○	○
評価の観点 (評価基準)			○授業や調査、発表、課題について、主体的に取り組んでいるか。 ○地理的なものの見方・考え方を身に付けられたか。(基礎・基本事項の習得) ○地理的現象から考察したことを自分の言葉で論理的に人に伝えることができるか。								
評価の方法			定期考査、小テスト、プレゼンテーション、授業態度、提出物等により評価								
学習の手引き			○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。工夫したノートを作成すること。 ○身の周りの様々な事象に対し関心、疑問をもち、地理的な見方や考え方で事象を捉えるようにする。 ○関心をもったことについて、常に地図と照らし合わせて、地図に親しむ。								
授業担当者			才野 秀樹								

令和 6 (2024) 年度			年 間 授 業 計 画								
教科・科目			地理歴史		歴史総合		2		単位		
対象学年・組			1 年生				必修				
教科書 (出版社)			歴史総合 (実教出版)				ダイアログ歴史総合 (第一学習社)				
学習目標 【観点別】			○世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、近現代の歴史を理解する。 ○諸資料から情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。【知識及び技能】 ○近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。【思考・判断・表現力】 ○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。【主体的に学習に取り組む態度】								
学期		予定時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準		知	思	態	
1	前半	12	近代化と私たち	○近代化への問い ○江戸時代の日本と東アジア ○幕政の改革と東アジア世界 ○産業革命と独立戦争 ○フランス革命とウィーン体制 ○アヘン戦争の衝撃と日本 ○江戸幕府の滅亡		・資料を適切な方法で正確に読み取った上で、重要な側面を理解できている。 ・諸資料から、近代化に与えた影響について考察し、表現できている。 ・歴史的な時代の流れを踏まえ、見通しをもって学習に取り組んでいる。		○	○	○	
	後半	12	近代化と私たち	○イギリス・フランスの繁栄 ○明治政府の諸改革 ○自由民権運動 ○帝国主義の時代へ ○朝鮮をめぐる日清戦争 ○日露戦争と東アジアの変動 ○日本の産業革命		・欧米列強とアジア諸国の関係性や国内の政治体制の変化を理解できている。 ・資料や図版を通して歴史的变化や影響を考察し、表現できている。 ・時代の特徴を多角的にとらえ、歴史の大きな転換点を意識し、見通しをもって学習に取り組んでいる。		○	○	○	
2	前半	14	国際秩序の変化や大衆化と私たち	○第一次世界大戦 ○ロシア革命とソ連の成立 ○米騒動とデモクラシー ○ヴェルサイユ体制 ○アジアの民族運動 ○第一次世界大戦後の欧米諸国 ○ひろがる社会運動と普通選挙		・左記のそれぞれの項目に対し、国際関係を踏まえながらその内容や歴史的意義を理解できている。 ・資料や図版を通して国際社会への影響を考察し、表現できている。 ・国際社会の対立と協調を意識し、見通しをもって学習に取り組んでいる。		○	○	○	
	後半	14	国際秩序の変化や大衆化と私たち	○世界恐慌と各国の対応 ○ファシズムの時代 ○満州事変と軍部の台頭 ○日中戦争と戦時体制 ○第二次世界大戦 ○国際連合の成立と冷戦 ○日本占領と日本国憲法		・各国の経済状況が及ぼす結果を踏まえながら、独裁勢力台頭の背景や歴史的影響を理解できている。 ・資料や図版を通して大戦に至る国内状況を考察し、表現できている。 ・戦前から戦後への流れを意識し、見通しをもって学習に取り組んでいる。		○	○	○	
3		18	グローバル化と私たち	○植民地の独立 ○米ソ両陣営の動揺 ○日本の国際社会復帰 ○石油危機と世界経済 ○緊張緩和から冷戦の終息へ ○日本の経済大国化 ○地域紛争と国際秩序の変容		・冷戦構造の拡大過程を踏まえながら、米ソを中心とした東西二つの陣営の対立関係を理解できている。 ・資料や図版を通して日本の戦後政治の特徴を考察し、表現できている。 ・日本の経済大国化への流れを意識し、見通しをもって学習に取り組んでいる。		○	○	○	
評価の観点 (評価基準)			○授業において、発表・討論・その他諸課題に対して、主体的に取り組んでいるか。 ○歴史的なものの見方や考え方を身に付けられたか。[基礎的・基本的知識の定着] ○歴史的現象から考察したことを自分の言葉で論理的に人に伝えることができたか。								
評価の方法			定期考査、小テスト、プレゼンテーション、授業態度、提出物等により総合的に評価する。								
学習の手引き			○授業に対して、自ら学ぶ姿勢と他者から学ぶ姿勢を大切にし、意欲的・積極的に参加すること。 ○国内外を問わず、日々の出来事に関心をもち、歴史的な視点で事象を捉えるようにすること。 ○教科書の学習を通して新たに湧いて出た疑問点を自ら考え、解決する姿勢をもつこと。								
授業担当者			早稲田 弘貴 ・ 池谷 孝明								

令和 6 (2024) 年度			年 間 授 業 計 画								
教科・科目			数学		数学A		2		単位		
対象学年・組			1 年生(含む特進)				必履修				
教科書 (出版社)			高等学校数学A(数研出版)				Study-Up ノート数学A (数研) (特進以外) ★クリアー数学A完成ノート, チャート式解法と演習数学 I +A (数研) (特進)				
学習目標 【観点別】			1. 基礎・基本を確実に身に付けさせ、基礎的な知識・技能を習得させる。【知識・技能】 2. 生徒の主体的・創造的な学習能力の育成を図り、生徒が学習の達成感を実感することが出来るようにする。【思考・判断・表現】 3. 生徒の数学に対する興味・関心を深め、数学的な見方や考え方の良さや有用性を実感できるようにする。【主体的に学習に取り組む態度】								
学期		予定時	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容		評価規準		知	思	態
1	前半	12	第1章 場合の数と確率		1. 集合の要素の個数 2. 場合の数		集合の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ場合の数の問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。		○	○	○
	後半	12	第1章 場合の数と確率		3. 順列 4. 組合せ		順列・組み合わせの基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ応用的な場合の数の問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。		○	○	○
2	前半	14	第1章 場合の数と確率		5. 事象と確率 6. 確率の基本性質 7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率		確率の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ条件付確率などの問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。		○	○	○
	後半	14	第2章 図形の性質		1. 三角形の辺の比 2. 外心・内心・重心 3. メネラウスの定理・チェバの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 二つの円		平面図形の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ平面図形の応用問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。		○	○	○
3		18	第3章 整数の性質		1. 約数と倍数 2. 最大公約数, 最小公倍数 3. 整数の割り算と商・余り 4. ユークリッドの互除法 5. 一次不定方程式 6. 分数と小数 7. n進法		約数や倍数の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ一次不定方程式を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。		○	○	○
評価の観点 (評価基準)			教科書の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ応用問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。								
評価の方法			定期考査、授業態度、提出物等により評価								
学習の手引き			・定義や概念を理解する。 ・定理・公式を理解し、その利用方法を整理する。 ・演習問題では、方針を立て、取り組む姿勢を身に付ける。								
授業担当者			荻原知明, 宇田川 正寛, 江藤 佳澄								

令和 6 (2024)年度			年 間 授 業 計 画								
教科・科目			理科		化学基礎		2		単位		
対象学年・組			1 年生(含む特進)				必履修				
教科書 (出版社)			新編化学基礎（東京書籍）								
学習目標 【観点別】			○実験を通じ、科学的な概念や原理・法則を理解し、自然観を育成する【知識及び技能】 ○グループ学習等を通じ、論理的思考や説明能力を養う【思考力、判断力、表現力等】 ○身近な現象に疑問を持ち、主体的に探究する態度を養う【学びに向かう力、人間性等】								
学期		予定 時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準		知	思	態	
1	前半	12	第1編 化学と人間生活 第1章 化学とは何か 第2章 物質の成分と 構成元素	○ 物質の成分 ○ 物質の構成元素 ○ 物質の三態		・身のまわりの製品には、その物質の 性質がうまく利用されていることに 気づく。 ・物質には性質があり、私たちはそれ を利用して生活していることを理解 する。		○	○	○	
	後半	12	第2編 物質の構成 第1章 原子の構造と 元素の周期表 第2章 化学結合	○ 原子の構造 ○ 電子配置と周期表 ○ イオンとイオン結合 ○ 分子と共有結合 ○ 金属と金属結合 ○ 化学結合と物質の分類		・物質は、原子・分子・イオンといっ た粒子を理解する。 ・さらに化学結合をすることによって 成り立っていることを理解する。 ・さまざまな化学結合の違いについて について説明できるようになる。		○	○	○	
2	前半	14	第3編 物質の変化 第1章 物質量と化学 反応式	○ 原子量・分子量・式量 ○ 物質量 ○ 溶液の濃度 ○ 化学反応の表し方 ○ 化学反応式の表す量的 関係		・原子・分子・イオンの量について考 えるための方法と理解する。 ・これらの粒子が組み換わる化学反応 の表しかたと量的関係についての計 算ができるようになる。		○	○	○	
	後半	14	第2章 酸と塩基	○ 酸と塩基 ○ 水素イオン濃度とpH ○ 中和反応と塩の生成 ○ 中和滴定		・酸・塩基は私たちの身のまわりにあ り、古くから知られている物質であ ることに気づく。 ・これらの性質と、中和反応について 理解する。		○	○	○	
3		18	第3章 酸化還元反応	○ 酸化と還元 ○ 酸化剤と還元剤 ○ 金属の酸化還元反応 ○ 酸化還元反応の応用		・中和反応と並び、重要な化学反応で ある酸化還元反応について電子の授 受を中心に考察し、理解する。		○	○	○	
評価の観点 (評価基準)			○授業や実験、観察について、主体的に取り組んでいるか。 ○化学的なものの見方・考え方を身に付けられたか。 ○自然現象を自分の言葉で論理的に人に伝えることができるか。								
評価の方法			定期考査、授業態度、提出物等により評価								
学習の手引き			○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。 ○身の周りの様々な事象に対し疑問を持ち、科学的な見方や考え方で事象を捉えること。 ○仮説を立てながら観察・実験に主体的に参加し、探究する態度を持つこと。								
授業担当者			中村 圭一								

令和6(2024)年度

年間授業計画

令和6(2024)年度				年 間 授 業 計 画					
教科・科目		理科		生物基礎		2 単位			
対象学年・組		1 年生(含む特進)		必修修					
教科書 (出版社)		i版 生物基礎 (啓林館)		ESSENCE NOTE 生物基礎 (啓林館)					
学習目標 【観点別】		○観察や実験を通じ、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する【知識及び技能】 ○グループ学習等を通じ、論理的思考や説明能力を養う【思考力、判断力、表現力等】 ○身近な現象に対して疑問を持ち、主体的に探究しようとする態度を養う【学びに向かう力、人間性等】							
学期	予 定 時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準		知	思	態
1	前半	第1部生物の特徴 第1章生物の特徴	①生物の共通性と系統 ②細胞の構造 ③代謝とエネルギー		①生物の共通性について、系統樹を利用して理解できるか。 ②真核生物と原核生物の共通点と相違点について理解できているか。 ③化学エネルギー、ATP、酵素等の代謝に関連する事象を理解しているか。		○	○	○
	後半	第2部遺伝子とその働き 第2章遺伝子とその働き	①DNAの構造と遺伝子 ②DNAの複製と細胞周期 ③転写と翻訳		①DNAが遺伝子の本体であることと、その構造について理解できるか。 ②細胞分裂とそれに先立つDNAの複製について理解できるか。 ③タンパク合成について理解できているか。		○	○	○
2	前半	第3部ヒトの体の調節 第3章神経系と内分泌系による調節 第4章免疫	①恒常性と体液 ②自律神経による調節 ③ホルモンによる調節 ④血糖濃度と浸透圧の調節		①恒常性の意味と、体液によって恒常性が維持されていることを理解できるか。 ②③自律神経およびホルモンにより恒常性が維持される仕組みを理解できるか。 ④体液の濃度が適切に調節される仕組みを理解できるか。		○	○	○
	後半	第3部ヒトの体の調節 第4章免疫 第4部生物の多様性と生態系 第5章植生と遷移	①生体防御の全体像 ②自然免疫と獲得免疫 ③抗体と免疫記憶 ④自然環境と遷移 ⑤日本と世界のバイオーム		①②生体防御の全体像及び、自然免疫と獲得免疫について理解できるか。 ③免疫記憶の仕組みについて理解し、医療への応用について理解できるか。 ④⑤自然環境の移り変わり、世界のバイオームについて理解できるか。		○	○	○
3	18	第4部生物の多様性と生態系 第6章生態系とその保全	①種多様性と食物連鎖 ②生態系のバランスと人間活動 ③外来生物と生態系の関係		①生物多様性と、食物連鎖について高度なレベルで理解できるか。 ②人間の活動が生態系に与える影響について深く考えることができるか。 ③日本において外来生物が環境に与えている影響と、世界の状況についても同様に理解することができるか。		○	○	○
評価の観点 (評価基準)		○授業や実験、観察について、主体的に取り組んでいるか。 ○生物学的なものの見方・考え方を身に付けられたか。(基礎・基本事項の習得) ○生物学的な現象を自分の言葉で論理的に人に伝えることができるか。							
評価の方法		定期考査、授業態度、提出物等により評価							
学習の手引き		○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。 ○身の周りの様々な生物や生理学的現象に対し疑問を持ち、科学的な見方や考え方で事象を捉えるようにすること。 ○仮説を立てながら観察・実験に主体的に参加し、探究する態度を持つこと。							
授業担当者		宮木 奈緒 (1～3組) 林 美奈子 (4～8組)							

令和 6 (2024) 年度		年 間 授 業 計 画							
教科・科目		保健体育			体育		3 単位		
対象学年・組		1 年生			必履修				
教科書 (出版社)									
学習目標 【観点別】		○各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】 ○運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。【思考力、判断力、表現力等】 ○生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】							
学期	予定時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準		知	思	態
1	前半	18	・体づくり運動 ・陸上競技	・体ほぐしの運動 ・体力を高めるための運動 ・短距離走	・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方を身に付ける。 ・合理的な動きと比較して成果や改善すべきポイントを発見し、仲間に伝える。 ・主体的に取り組む。		○	○	○
	後半	18	・球技 ・武道 ・ダンス	(男子) ・バレーボール ・ソフトボール ・柔道 (女子) ・バレーボール ・アルティメット ・ダンス	・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。		○	○	○
2	前半	21	・球技 ・武道 ・ダンス	(男子) ・バレーボール ・ソフトボール ・柔道 (女子) ・バレーボール ・アルティメット ・ダンス	・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。		○	○	○
	後半	21	・球技 ・武道 ・ダンス	(男子) ・バスケットボール ・サッカー ・柔道 (女子) ・バスケットボール ・フットサル ・ダンス	・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。		○	○	○
3	27	・陸上競技 ・球技	(男子) ・長距離走 ・サッカー／バスケットボール (女子) ・長距離走 ・バスケットボール／バレーボール	・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。		○	○	○	
評価の観点 (評価基準)		○授業に主体的、積極的に取り組んでいるか。 ○体力の高め方、運動の技能を身に付けられたか。 ○仲間と協力をし、健康・安全に留意して取り組んでいるか。。							
評価の方法		出席状況、授業態度、授業の記録、実技テスト等により総合的に評価する。							
学習の手引き		○自己や仲間の課題を発見し、運動の取り組み方や練習方法を工夫する。 ○仲間と協力をし、自己の役割を自覚し、活動を振り返る。							
授業担当者		(男子) 糟谷、伊藤、鈴島 (女子) 糟谷、切通、古里							

令和 6 (2024)年度			年 間 授 業 計 画								
教科・科目			保健体育		保健		1		単位		
対象学年・組			1 年生				履修対象				
教科書 (出版社)			現代高等保健体育（大修館書店）				現代高等保健体育保健ノート				
学習目標 【観点別】			現代の健康問題や新しい時代の健康の考え方などについて理解する。								
			健康に関する意思決定・行動選択について考え、説明できる。								
			健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組む。								
学期		予定 時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準		知	思	態	
1	前半	6	現代社会と健康	01健康の考え方と成り立ち 02私たちの健康のすがた 03生活習慣病の予防と回復 04がんの原因と予防 05がんの治療と回復		○我が国の国民の健康と疾病について理解し、言ったり書いたりしている。食事、運動、休養、飲酒など、日常生活の基本となる生活態度について自他の課題を発見している。自他の課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。		○	○	○	
	後半	6	現代社会と健康	06運動と健康 07食事と健康 08休養・睡眠と健康 09喫煙と健康				○	○	○	
2	前半	7	現代社会と健康	10飲酒と健康 11薬物乱用と健康 12精神疾患の特徴 13精神疾患の予防 14精神疾患からの回復		○薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について理解し、説明できている。現代における精神保健の課題をあげ、その解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。		○	○	○	
	後半	7	現代社会と健康	15現代の感染症 16感染症の予防 17性感染症・エイズとその予防 18健康に関する意思決定 ・行動選択 19健康に関する健康づくり				○	○	○	
3		9	安全な社会生活	01事故の現状と発生要因 02安全な社会の形成 03交通における安全 04応急手当の意義との基本 05日常的な応急手当 06心肺蘇生法		○事故や災害時における危険を認識し、防災意識を高める。日常生活の中ではいつ、いかなる事態が起こるかわからない。このような場合に日常的なけがや熱中症の応急手当、心肺蘇生法等について、その手順や方法を説明、実際に行うことができる。		○	○	○	
評価の観点 (評価基準)			○授業について、主体的に取り組んでいるか。 ○健康的なものの見方・考え方を身に付けられたか。 ○自他の健康課題について考え、その課題解決に向けて取り組もうとしているか。								
評価の方法			授業の取組態度、提出物、定期考査により評価する。								
学習の手引き			○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。 ○身の周りの様々な健康課題に対し疑問を持ち、自分事としてとらえ考えること。 ○グループワーク等を通して、他人の考えを知り、自分の考えを深めること。								
授業担当者			糟谷、古里、切通								

令和 6 (2024) 年度 年 間 授 業 計 画

教科・科目			外国語 英語コミュニケーション I		3 単位								
対象学年・組			1 年生(含む特進)		必修								
教科書 (出版社)			Power On English Communication I (東京書籍)										
学習目標 【観点別】			基本的な語彙や文法を理解し、文章の内容を読み取ることができる。 情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えることができる。 積極的にコミュニケーションを取り、異文化理解を深める。										
学期		予定 時	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	聞	読	話 や	話 発	書	知	思	態
1	前半	18	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。	Lesson1 Japan's New Tourism Lesson2 Light from Creatures	①語彙や文法の知識をもとに日本の観光についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに光る生き物と医療研究についての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	○	○	○	○	○
	後半	18	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。	Lesson3 Routes to the Top Lesson4 Left to Right, Right?	①語彙や文法の知識をもとに野口選手やスポーツ選手についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに日本外国の漫画形式やその翻訳についての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	○	○	○	○	○
2	前半	21	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。	Lesson5 Banana Paper Lesson6 Patterns in Human Behavior	①語彙や文法の知識をもとにバナナペーパープロジェクトについての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに人間の行動に関する心理学実験の手順や結果についての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	○	○	○	○	○
	後半	21	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。	Lesson7 No Plastic or No Future Lesson8 Oh My Cod!	①語彙や文法の知識をもとにプラスチックごみによる海洋汚染についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに食料資源やフィッシュアンドチップスの期限や歴史についての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	○	○	○	○	○
3		27	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。	Lesson9 Is E-sports a Real Sport? Lesson10 Being Different Is Beautiful	①語彙や文法の知識をもとにeスポーツの現状や利点、欠点についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに写真家ヨシダナギさんの経験、過去、現在についての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	○	○	○	○	○
評価の観点 (評価基準)			定期試験を中心に評価する。その他、授業への参加度や提出物、授業内試験も考慮する。										
評価の方法			定期試験、授業内試験(ライティング・スピーキング・リスニング)、提出物、スピーチ等のプレゼンテーション										
学習の手引き			教科書、参考書、ワークブック、JETとのTeam Teachingにより指導										
授業担当者			大高 摩美、植田 薫、岡本 愛美										

令和 6 (2024)年度																年 間 授 業 計 画					
教科・科目			外国語				論理・表現 I				2		単位								
対象学年・組			1 年生(含む特進)				必履修														
教科書 (出版社)			Vision Quest English Logic and Expression I Standard (啓林館)																		
学習目標 【観点別】			基本的な文法及び語法力を習得して、論理的な英語の表現力を身につける。 自己の考えを英語で自由に述べられる表現力を身につける。 積極的にコミュニケーションを図る力を養い異文化を理解する。																		
学期		予定 時	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容		評価規準			聞	読	話 や	話 発	書	知	思	態				
1	前半	12	英語の基本構造を理解する。		文の種類 主語、動詞、補語、目的語の理解		肯定文、疑問文、否定文の表し方の理解 主語、動詞からなる英文の構造の理解 積極的にコミュニケーションを図る態度			○	○	○	○	○	○	○	○				
	後半	12	現在、過去、未来の時制を理解する。		現在・過去の表現方法 さまざまな未来表現の表し方		現在、過去時制の違いを理解している 状況に応じた未来表現を理解している 積極的にコミュニケーションを図る			○	○	○	○	○	○	○	○				
2	前半	14	完了時制を理解する 助動詞を理解する		現在完了、過去完了、 未来完了の理解 基本的な助動詞の用法の理解		現在完了、過去完了、未来完了を理解している 助動詞の基本的な用法を理解している 積極的にコミュニケーションを図る			○	○	○	○	○	○	○	○				
	後半	14	受動態を理解する 不定詞を理解する		受動態の基礎、さまざまな受動態の用法の理解 不定詞の3つの用法を理解する		さまざまな受動態を用いてコミュニケーションを図る 不定詞の3用法を理解して自己の考えを表現する 積極的にコミュニケーションを図る			○	○	○	○	○	○	○	○				
3		18	動名詞を理解する 分詞を理解する		動名詞の意味とさまざまな用法を理解する 分詞のさまざまな用法を理解する		動名詞の用法を理解して自己の考えを表現する 分詞の用法を理解して自己の考えを表現する 積極的にコミュニケーションを図る			○	○	○	○	○	○	○	○				
評価の観点 (評価基準)			英語の文法、語法を理解して自己の考えを述べてコミュニケーションを図る																		
評価の方法			定期試験、授業内試験、提出物、スピーチ等のプレゼンテーション																		
学習の手引き			教科書、参考書、ワークブック、ネイティブによるアドバイス																		
授業担当者			稲垣 浩二・大高 摩美・風見 岳快																		

令和 6 (2024)年度			年 間 授 業 計 画								
教科・科目			情報		情報 I		2		単位		
対象学年・組			1 年生					必修			
教科書 (出版社)			新編情報 I (東京書籍) 新編情報 I 資料ノート (東京書籍) 30時間でマスターOffice2019(実教出版)								
学習目標 【観点別】			情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させるとともに、問題の発見と解決に情報及び情報技術を効果的に活用するための科学的な考え方を習得し、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を養う。								
学期		予定 時	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容		評価規準		知	思	態
1	前半	12	1章 情報で問題を解決する		○ 情報とメディアの特徴 ○ 問題解決の流れ ○ 情報モラル ○ 著作権 ○ 情報技術の発展		◆情報やメディアの特性を理解している ◆身近な問題について、問題解決のプロセスに当てはめようとしている ◆情報モラルを身に付けようとしている ◆授業で使われる著作権の扱いについて調べようとしている ◆身の回りの情報技術の活用場面を知ろうとしている		○	○	○
	後半	12	2章 情報を伝える		○ ネットコミュニケーションの特徴 ○ 様々なデジタル表現		◆ネットコミュニケーションの特性を理解してメディアを活用しようとしている ◆コンピュータによるデジタル化の方法に興味を持ち、科学的に理解しようとしている。		○	○	○
2	前半	14	2章 情報を伝える		○ 目的に応じたデジタル化 ○ 情報デザイン ○ ユニバーサルデザイン		◆情報の圧縮方法の違いについて考えることができる ◆情報を可視化して表現することができる ◆ユニバーサルデザインとは何か理解している		○	○	○
	後半	14	3章 コンピュータを活用する		○ コンピュータとは何か ○ ソフトウェアの仕組み ○ アルゴリズム ○ プログラムの基本構造 ○ モデル化とシミュレーション		◆コンピュータの仕組みを理解している ◆ソフトウェアの働きを理解している ◆アルゴリズムを理解している ◆効率の良いプログラムを表現することができる ◆実際の問題を解決するためにモデルを使ったシミュレーションを表現することができる		○	○	○
3		18	4章 データを活用する 5章 活用して提案する		○ ネットワークとインターネット ○ サーバとクライアント ○ 情報セキュリティ ○ データベースの活用 ○ データ分析 ○ データ利用		◆インターネットの今後の利用について考えることができる ◆サーバとクライアントの意味と役割を理解している ◆情報セキュリティの技術について理解している ◆データベースがどのように活用されているか理解している		○	○	○
評価の観点 (評価基準)			○情報を適切に活用するための基本的事項を確実に理解し、運用できるかを評価の観点とする。								
評価の方法			○授業内の「学習状態」,「実技テスト」及び「課題」, 定期考査を基に評価する。 ○学習状態には、出席状況・授業態度・授業に対する取り組み等が含まれる。								
学習の手引き			○授業開始前に教科書・補助教材等を机上に用意し、ログインし、開始を待つ。 ○PC操作が分からない場合は両隣の人と教えあう。(他人のPC操作をしてはいけない。) ○授業で説明した大事なポイントを学習ノート等に記録し、各定期考査の範囲を早めに学習しておく。								
授業担当者			齊藤 賢								